

○ 肝付町 川上校区むらづくり推進委員会

1 地区概要

川上地区は、肝付町の西部、高山川と岩屋川支流の合流地点近くに位置する国見山系の静かな山里に囲まれた4集落165世帯で構成する地域であり、水系に恵まれ3つの滝があるほか、豊富な水を利用して水力発電所も設置されている。

水稻を中心とした農業が行われており、また、深い山に囲まれた山間部であることから、傾斜地を利用した果樹栽培や、林業、シイタケ栽培、炭焼き等も古くから盛んに行われている。

平成21年度に地区内の川上中学校の木造校舎が国の登録有形文化財へ登録されたことをきっかけに、住民一体となった地域おこしの気運が高まり、平成22年11月に地域交流施設「やまびこ館」が開設された。

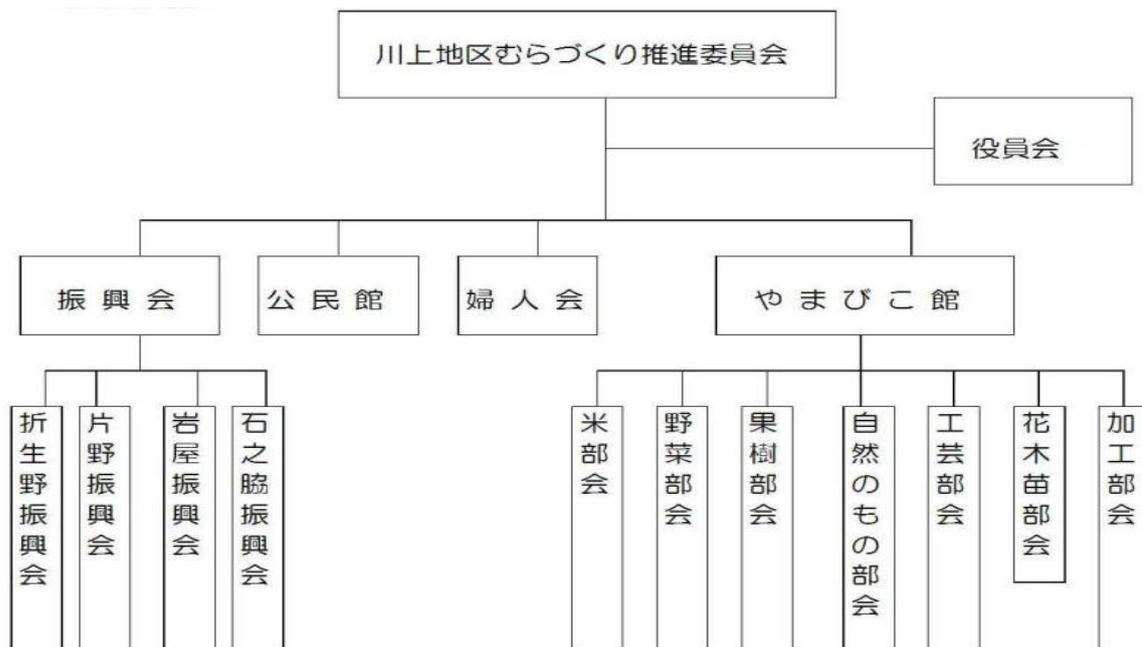
やまびこ館は、地域住民とむらづくり推進委員会が協力して管理運営を行っており、地域農産物の販売のほか、様々なイベントや田植え体験等の体験・交流活動も行われている。また、地域住民が一体となって耕作放棄地の解消や遊歩道の整備等にも取り組んでいる。

2 むらづくりの内容及び成果

(1) 農村集落の再生

川上地区は4集落から構成されており、それぞれの集落から選出された委員と集落の振興会、公民館、婦人会らによる「川上校区むらづくり推進委員会」を中心として、月1～2回の定例会のほか年間5回程度の情報交換会の開催等を行い、情報の共有化と協力体制の強化を図っている。

【地区の組織体制図】



(2) 新たなむらづくりの形成

ア やまびこ館を活用した取組

やまびこ館には、地元農産物・加工品の販売コーナーだけでなく交流スペースも設置されており、地区内だけでなく地区外との交流の促進も図られている。



やまびこ館内部（地元産の野菜）

イ 地域資源を活用した都市農村交流

耕作放棄地への景観植物の植栽や、耕作放棄地で収穫されたそばを利用したそば打ち交流会等のイベントを実施しているほか、地域密着型の旅行商品「魅旅」の受入も行った。



耕作放棄地に植栽したコスモス

ウ 地域おこし協力隊・JOUさんとの連携

ダンス作家である地域おこし協力隊と連携し、「踊る地域案内所」や休校中の学校の体育館を利用したイベントの実施、空き家を活用した定住促進等に取り組んでいる。

(3) むらづくりの維持・発展

ア 遊歩道の整備

地区内の川上神社奥に、住民が自らの手で2年間かけて遊歩道を整備し、現在も維持管理を行っている。

イ 川上ふれあいマップの作成

日本自然保護協会の協力を得ながら4集落の振興会を中心に現地調査を行い、四季の自然や川上校区に伝わる神話等を掲載した「川上ふれあいマップ」を作成した。

ウ 子どもたちによる伝統芸能の継承

伝統芸能「コタコン」は、少子化により継承が危ぶまれていたが、集落との連携・協力を図りながら、その継承に取り組んでいる。

3 今後のむらづくりの方向性

- ・ 解消した耕作放棄地を活用した農産物の生産拡大や、地域農産物を利用した新たな加工品づくりに取り組む。
- ・ イベントの企画内容の充実や様々なイベントの実施により、交流人口の増加及び定住を促進し、地域の活性化を図る。
- ・ 小規模の水田を生かした米一俵のオーナー制度の実施や、休校中の学校の校舎等を活用した農家レストランの開業に取り組み、地域の資源を最大限に活用したむらづくりを進める。